

2010(平成22)年3月9日

COCNフォーラム2010

「科学技術の進化が創造する社会イノベーション」

『「シルバーニューディール」で アクティブ・エイジング社会を目指す』

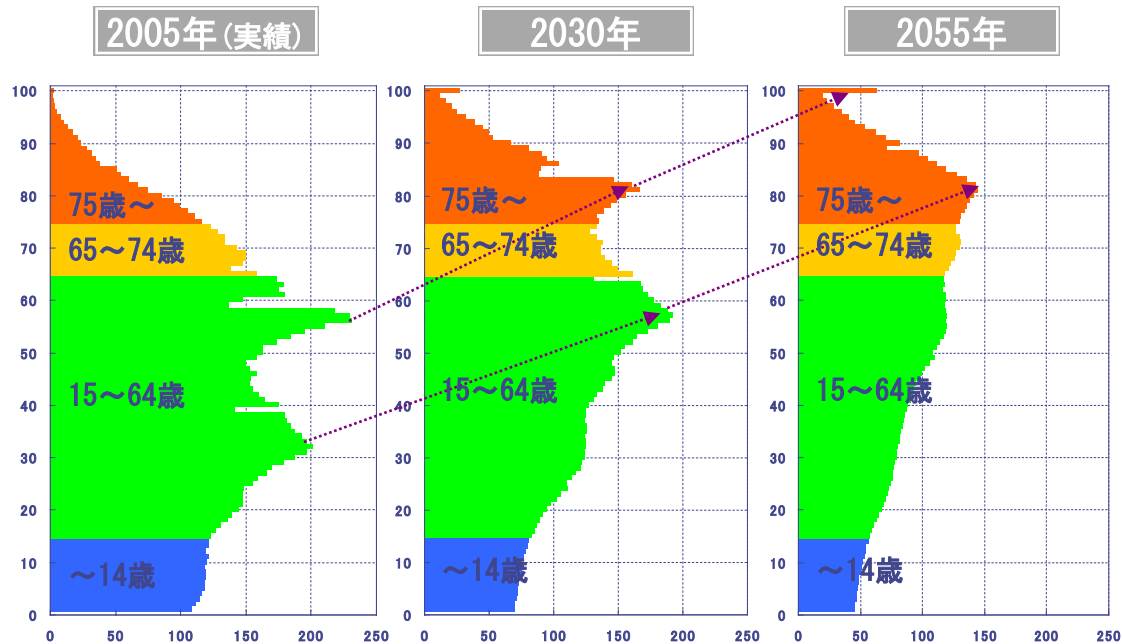
東京大学政策ビジョン研究センター

センター長 森田 朗

共同研究のフレームワーク

- ▶ 産学協働による新たな政策提言検討手法の実験
- ▶ 公共、医療・介護、都市、交通、IT、イノベーション等の多角的なアプローチ
- ▶ 高齢社会の課題を医療・介護に限定せず、
「アクティブ・エイジング都市・生活モデルの創生」を主題に
- ▶ 「住宅・都市・交通」と「健康・医療情報」の2領域にフォーカス
- ▶ 具体性のある提言

- ・ 21の主要な政策選択肢
- ・ 企業提案による13のアプローチ



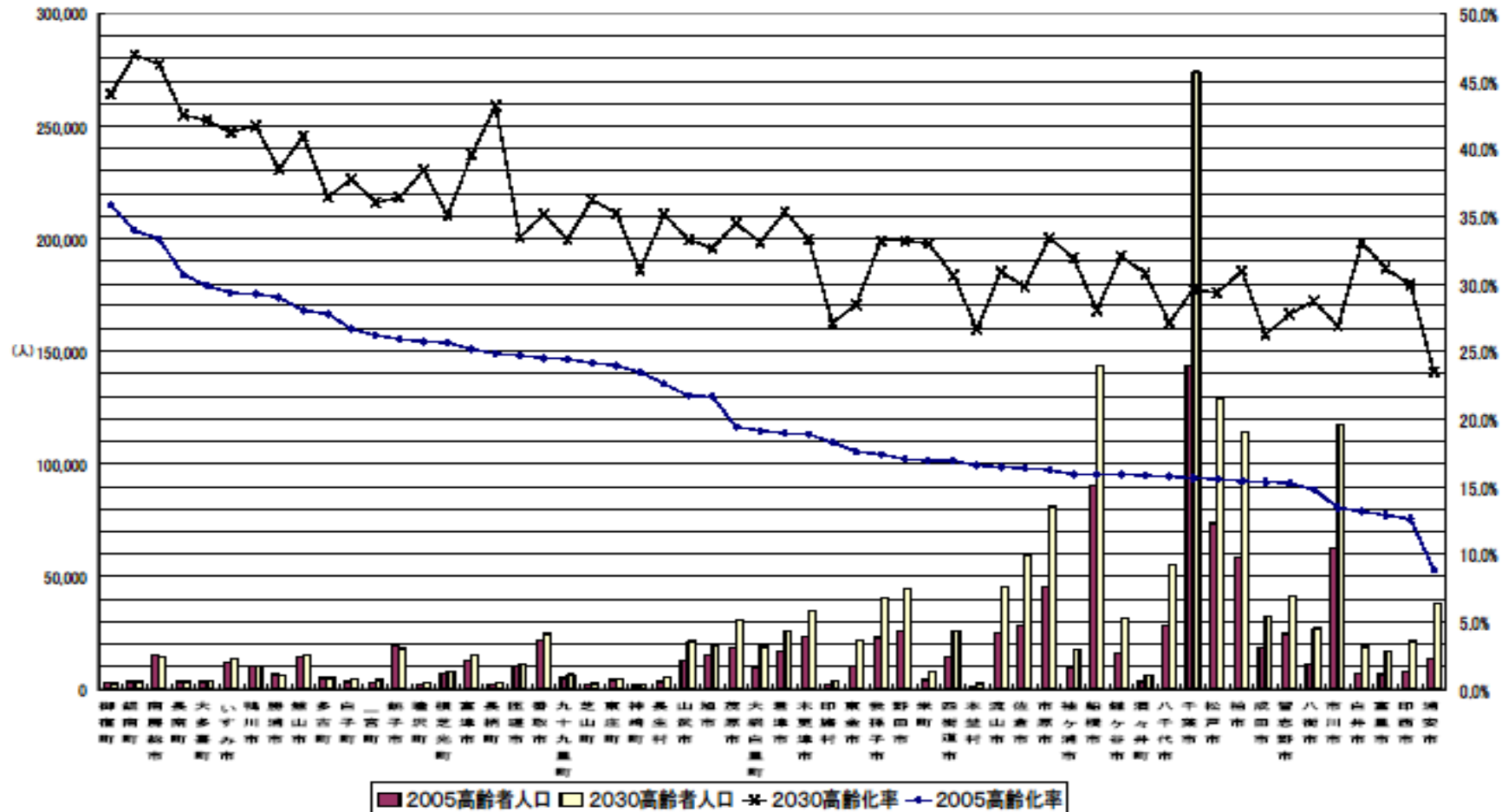
注：2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

社会の構造変化の認識

- 都市の高齢化
- 高齢者の健康人口の増加
- 高齢者標準の必要性

急速に訪れる都市部の高齢化 — 千葉県の場合

高齢化の現状と見通し（高齢者数と高齢化率）

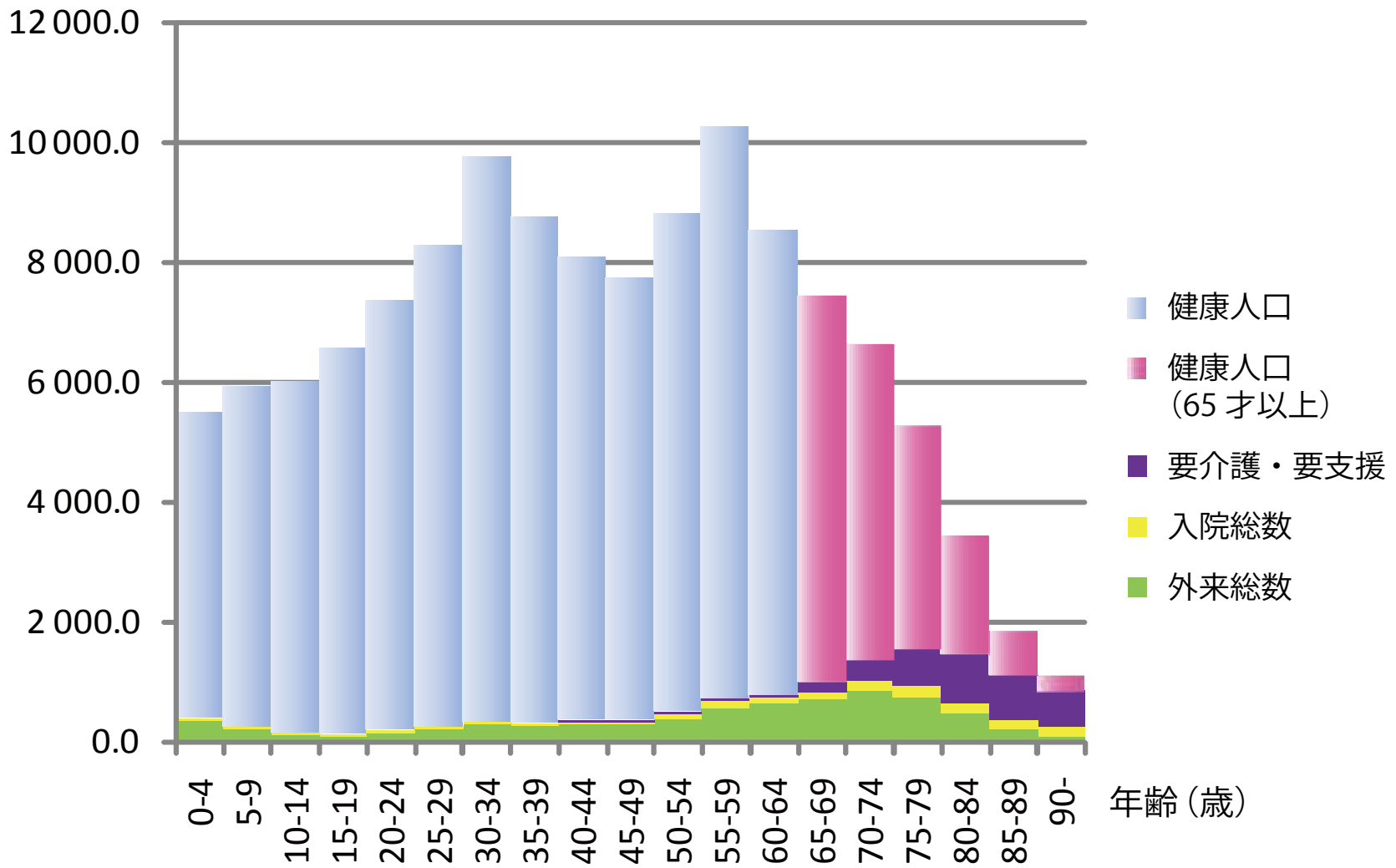


1 2005年は、平成17年4月1日現在

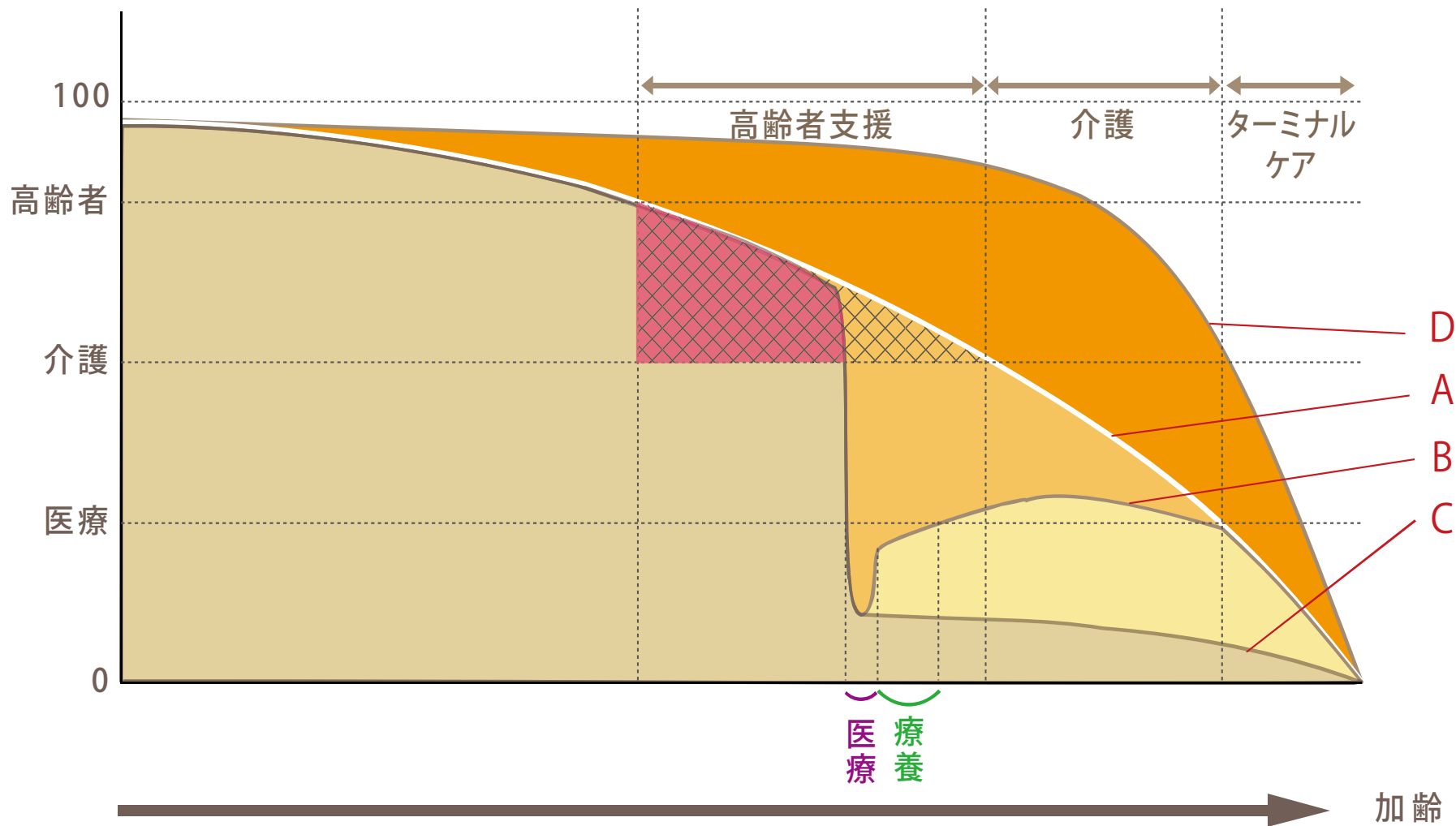
2 2030年は、日本の市区町村別将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所平成15年12月推計）による

年齢階層別 医療・介護・健康人口

人数(千人)



高齢者標準の必要性



提言の基本的考え方

- 高齢者が元気で安心して暮らせる社会の実現を目指す
- 社会の標準を若者・中堅から高齢者標準へとシフト
- 医療・福祉、都市・住宅、交通等の面を統合したソーシャルイノベーションによるブレークスルー
- それにより「この社会すべての人々のための社会」を実現

4つのフロンティア

1. マイホーム/マイタウンで安心してアクティブに暮らす

- 地域に対する愛着やネットワーク等を活かす多くの機会
- 高度なITCを活用した複層的な緩いネットワークの形成
- 地域循環型居住の実現
- マイホームとしてのシニア住宅の普及



在宅医療・介護の現場(新居浜市)



板状型で実現した超高層フリープランハウジングの将来対応の例
(鹿島建設)

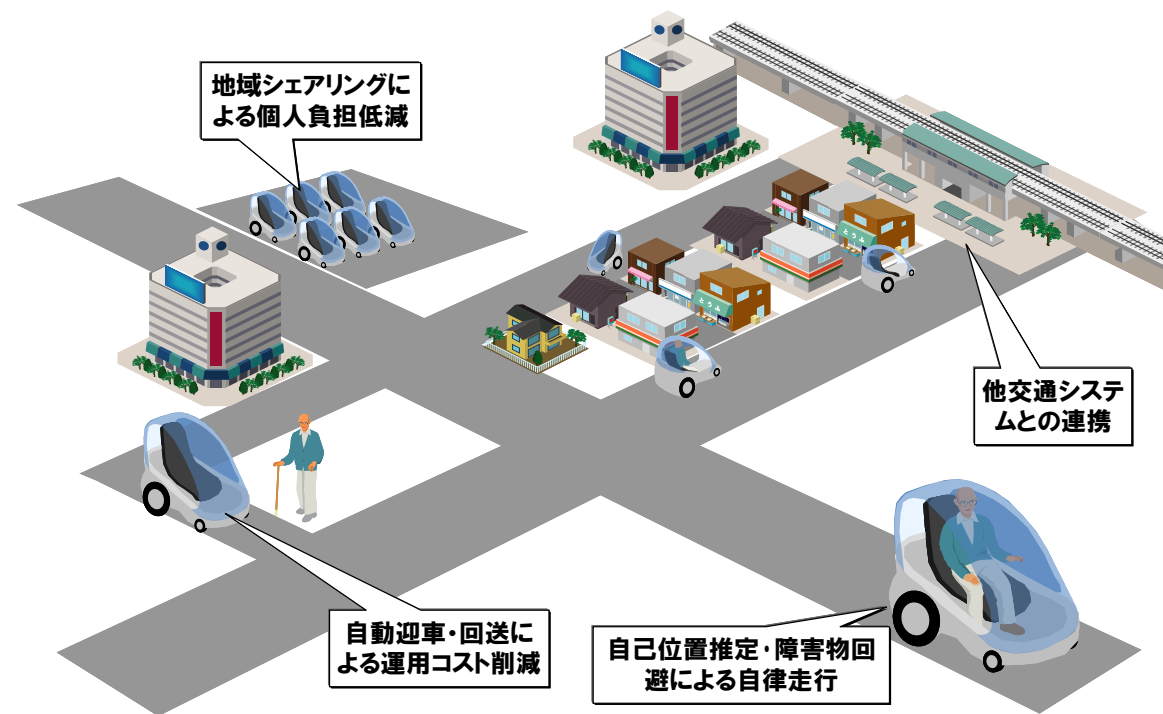
4つのフロンティア

2. ストレスを感じずに安全に移動する

- 交通結節点を中心とした面的なバリアフリー化
- オンデマンドの公共交通の普及-コンパクトな街づくりと街中をバス停にする
- 人の歩行空間に調和できるパーソナルモビリティの普及



パリの自転車シェアリング



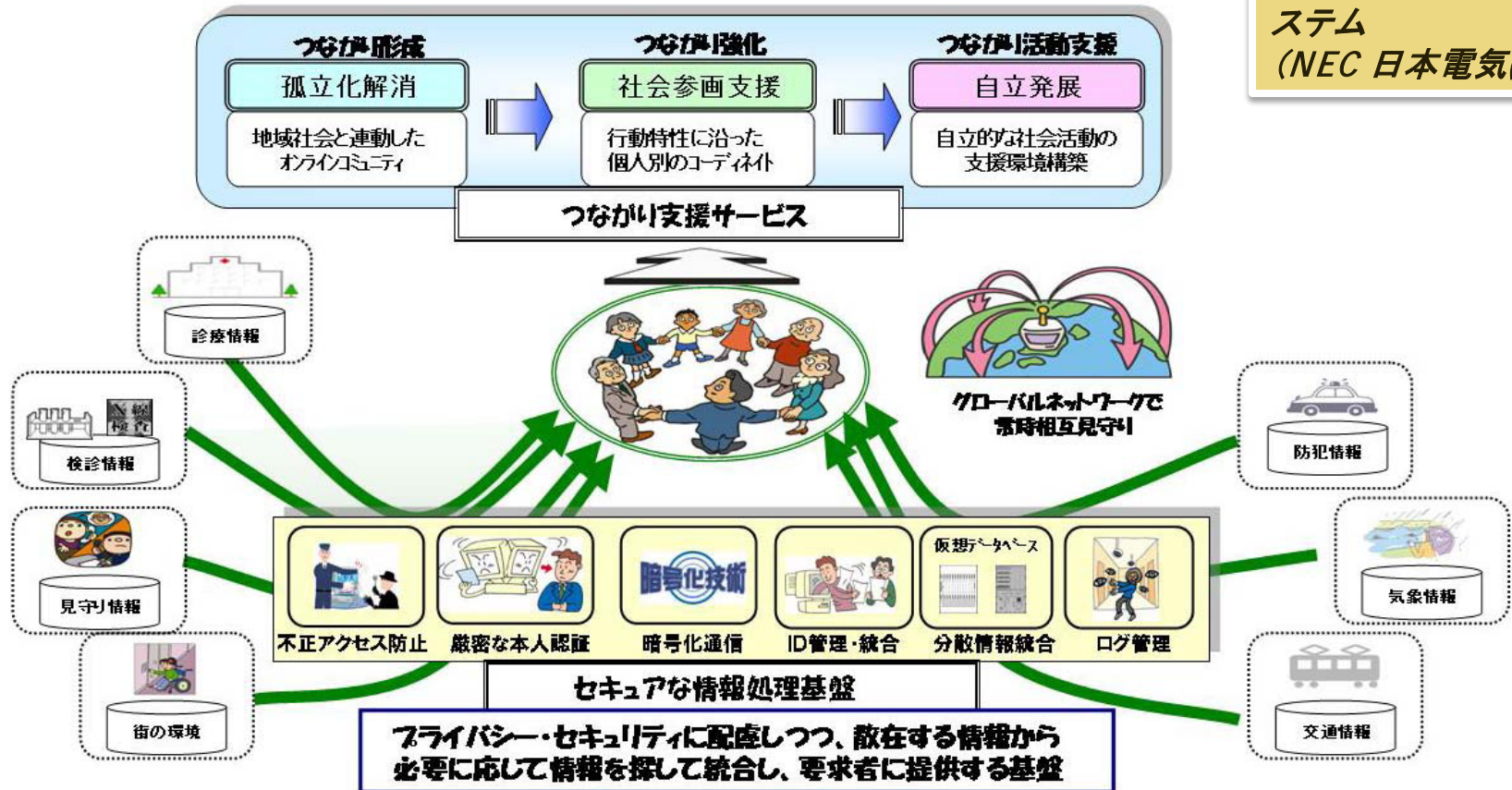
自立型パーソナルモビリティ(株)日立製作所

4つのフロンティア

3. 社会とつながり続ける

- 生活シーンに応じた複層的なコミュニティ形成
- ITやセンターを活用して頼れる存在とのつながりの常時維持
- 「市民後見制度」による見守り

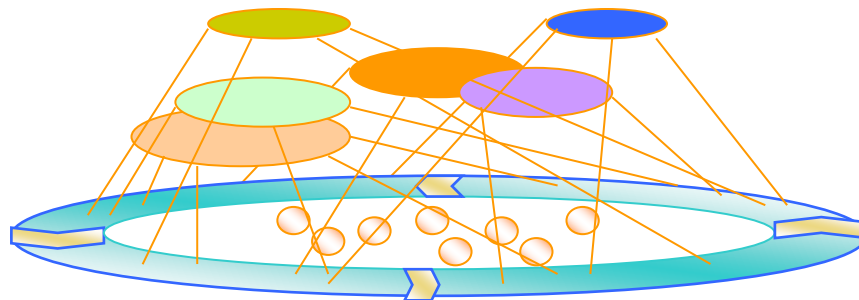
見守りコミュニティシステム
(NEC 日本電気株)



4つのフロンティア

4. クリニカルデータ(診療情報)を高度活用して効果的な予防・治療を受ける

- 在宅での健康診断
- 診療情報の医師・患者・家族での共有
- 診療情報の2次利用による医療の質や安全の向上



同時に達成

安全

ヒューマンエラーを防止するITシステム

- ・ ベッドサイドでの確認
- ・ 有害事象の確認 など

安心

全数を調べることで安心感を確保

- ・ トレーサビリティ
- ・ アウトカム情報公開 など

質・効率性

情報の活用により質の高い医療を効率的に

- ・ クリニカルデータの活用による臨床研究
- ・ 原価計算
- ・ 情報に基づいた政策・経営

ユビキタス・サービスプラットフォーム
(秋山昌範／東京大学政策ビジョン研究センター)

4つのフロンティア

1. マイホーム/マイタウンで安心してアクティブに暮らす

- 地域に対する愛着やネットワーク等を活かす多くの機会
- 高度なITCを活用した複層的な緩いネットワークの形成
- 地域循環型居住の実現
- マイホームとしてのシニア住宅の普及

2. ストレスを感じずに安全に移動する

- 交通結節点を中心とした面的なバリアフリー化
- オンデマンドの公共交通の普及-コンパクトな街づくりと街中をバス停にする
- 人の歩行空間に調和できるパーソナルモビリティの普及

3. 社会とつながり続ける

- 生活シーンに応じた複層的なコミュニティ形成
- ITやセンターを活用して頼れる存在とのつながりの常時維持
- 「市民後見制度」による見守り

4. クリニカルデータ(診療情報)を高度活用して効果的な予防・治療を受ける

- 在宅での健康診断
- 診療情報の医師・患者・家族での共有
- 診療情報の2次利用による医療の質や安全の向上

ソーシャルイノベーションを阻む5つの「壁」

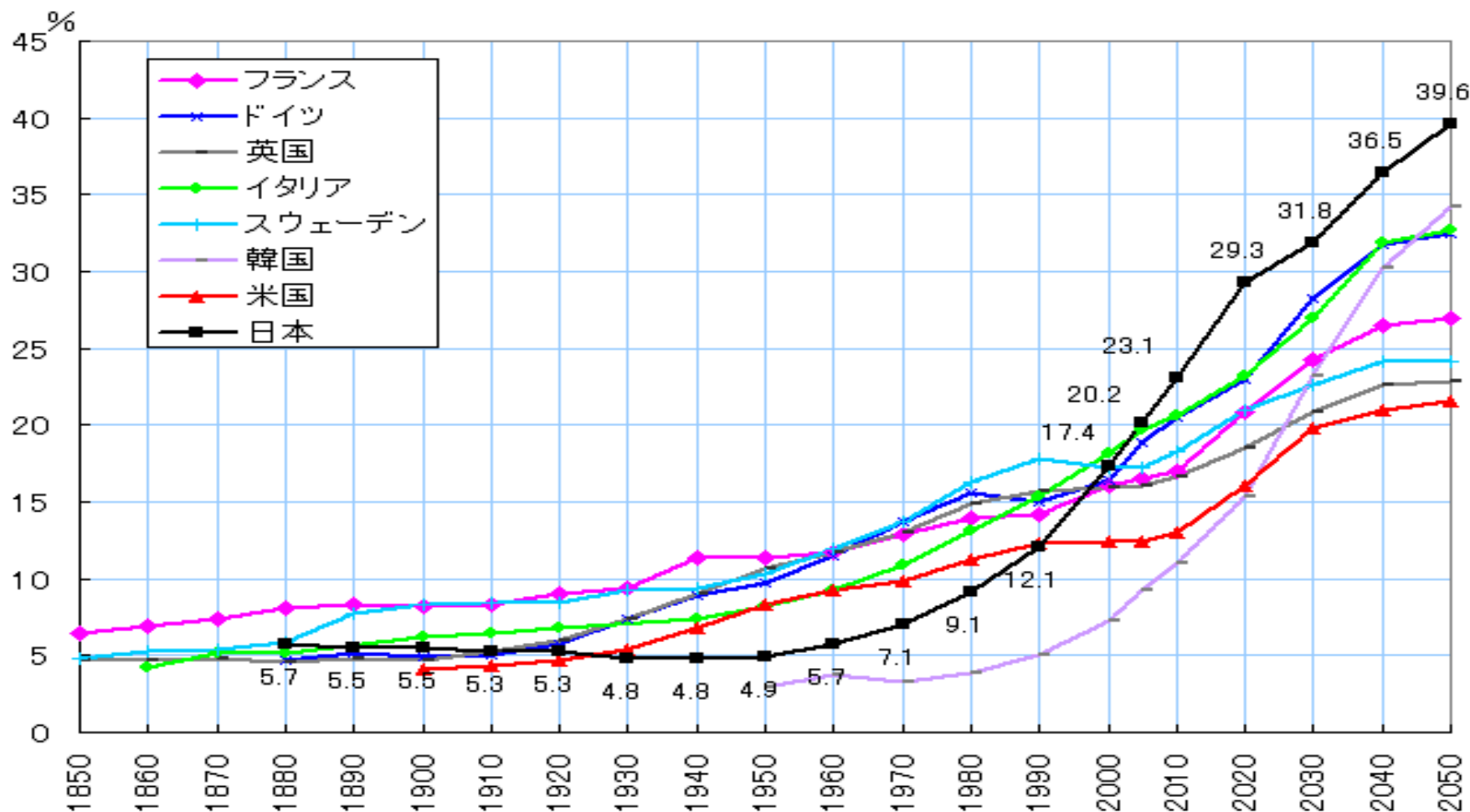
1. 新たな社会システムの可能性に関する認識不足
2. 基盤となるハード、ソフトの社会インフラへの投資不足
3. 新技術・ビジネスモデルに関する社会的な受け入れの「壁」
4. 技術・知識・アイデア、社会インフラ等の統合の難しさ
5. 社会における「実証実験」の機会の不足

中間的な政策提言： 「シルバーニューディール」の基本コンセプト

- 高齢者社会の潜在的な需要と我が国が持つ新技術、アイデア、新ビジネスモデル、地域資源等の供給サイドの力とを結びつける
- 新たな産業・雇用の創出と社会の高齢化に伴う課題解決の同時実現
- 高齢者標準社会モデルを梃子に成長するアジアの需要を開拓
- 高齢者に定年後の社会活動を行う基盤を提供

主要国における人口高齢化率の 長期推移・将来推計

COCN



(注) 65歳以上人口比率。1940年以前は国により年次に前後あり。ドイツは全ドイツ。
 日本は1950年以降国調ベース（2005年迄は実績値）。諸外国は国連資料による。
 日本推計は「日本の将来推計人口（平成18年12月推計、出生中位（死亡中位）推計値）」
 (資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口資料集2009」、国連”2008年改訂国連推計”

「シルバーニューディール」を進める方法論

1. 供給サイドの力の強化と高齢者社会のニーズへの適応力を高める
 - サービスサイエンスへの投資
 - 技術・知識の統合活動、市場参入の障壁除去
 - 実験的な社会インフラ整備など
2. 「制度時間」と「技術時間」の溝を埋める
 - 新技術・アイデアの社会的受容を促すスピーディな制度創造
3. 分野や組織を超えた多角的な検討を可能とする「場」づくり
4. 実証実験によるモデルの検証と国民に対する「みえる化」
5. 「高齢者標準社会基本法」のような統合的枠組みの創設
 - 国・社会が向かう将来のベクトルや足並みを揃える

ハード・社会インフラについての 21の具体的提案

1. マイホーム・マイタウンで安心してアクティブに暮らす

- 街づくりのマスタープランの統合化
- 住み替えが可能な「地域循環型住居モデル」の構築
- 高齢者人口の増加に対応した区分所有権法や建築関係の法制度の見直し
- 近隣住区を考慮した公共施設再配置制度の創設
- 地域医療ネットワークの形成

2. ストレスを感じずに安全に移動する

- パーソナルモビリティの交通ルール整備
- オンデマンド公共交通機関の導入
- 交通結節点を中心とした歩いて暮らせる構造の街の研究

ハード・社会インフラについての 21の具体的提案

3. 社会とつながり続ける

- ID番号と高齢者の事情を考慮した個人認証の仕組みの創設
- 大規模医療情報データベースの構築
- クリニカルデータ2次活用のためのルール整備等

4. 共通基盤

- 社会課題解決型のサービスサイエンスの競争力強化
- 高齢化社会の研究拠点や産学公民の協調拠点の創設
- 高齢化社会グラントの創設

具体的なプロジェクト展開への提案

「アクティブ・エイジング都市・生活モデル」の実証実験

- モデルを構成する要素間の調和
- 産学公民の協調
- 社会システムのアーキテクト人材の養成・確保
- 高齢者社会づくりのワンストップ拠点となる設置

クリニカルデータ高度活用プロジェクトの「特区」的展開

- 先進事例の結集による「国際シンポジウム」の開催
- 地域と産学公民の協働が可能となる「特区」の選定
- ステークホルダー間の相互不信を解消し、合意形成を容易とする分析の提供
- 医療の質や安全性の向上、専門医養成、画期的な新薬開発等への活用

おわりに

- ▶ 産学協働の新たな枠組みの実験による成果
- ▶ 政策ビジョン研究センターの今後の活動に対する支援の期待
- ▶ 新たな政策論議の場の形成